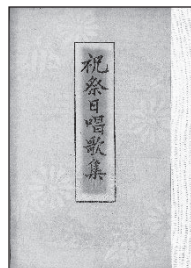
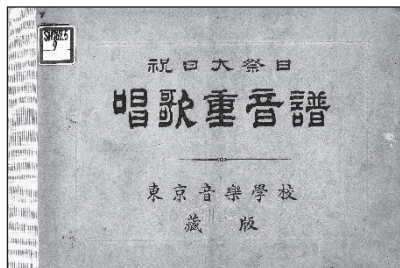


しゆくじつたいさいじつしょうかじゅうおんぷ

#16 祝日大祭日唱歌重音譜

編纂：東京音楽学校（とうきょうおんがくがっこう）

刊行：明治 33 年（1900）



※左より、『祝日大祭日唱歌重音譜』、『祝祭日唱歌集』



♪ 解題

■ 内容

明治 26 年（1893）8 月 12 日文部省告示第 3 号で「君が代」等 8 曲が「祝日大祭日儀式用唱歌」として公示され、それ以降、『祝祭日唱歌集』など数多くの「祝日大祭日儀式用唱歌」の楽譜が出版された。その中でも、東京音楽学校が明治 33 年（1900）に出版した『祝日大祭日唱歌重音譜』は祝祭日唱歌審査委員で唯一の外国人であったルドルフ・ディットリヒ（1861-1919）が演奏しやすく編曲をし、和声を附したものであり、これが「祝日大祭日唱歌」の定本として、全国の学校に普及していく。

「祝日大祭日儀式用唱歌」には現在、国歌である「君が代」が含まれている。この「君が代」は明治 13 年（1880）に海軍省が宮内省雅楽部に依頼し、作成された数曲の中から選定したもので、同年に宮中にて初演した。しかし、文部省は国歌の選定には慎重な判断を必要とするとして、この「君が代」を国歌として決定せず、明治 26 年の「祝日大祭日儀式用唱歌」の時点では、「天皇陛下奉祝の曲」として選定した。ただし、明治 21 年（1888）には海軍が明治 13 年に選定された楽譜を洋楽譜に改め、洋式和声を附し、

「JAPANISCHE HYMNE. nach einer altjapanischen Melodie, von F. ECKERT」と題した楽譜を作成、各条約国に配布しており、それ以後、形式上ではあるが、国内外において「君が代」は国歌として扱われるようになった。正式な国歌としての制定は、平成 11 年（1999）の「国旗国歌法」成立まで待つこととなり、明治 13 年の楽譜の制定より 119 年後であった。

■ 作者

東京音楽学校は、明治 20 年（1887）に文部省の音楽取調掛を起源とする音楽取調所より発足。昭和 24 年（1949）には東京美術学校と合併し、東京藝術大学音楽学部となる。

■ 収録曲

君が代/勅語奉答/神嘗祭/天長節/新嘗祭/一月一日/元始祭

♪ 類似の唱歌集

- ・『祝日大祭日唱歌集 新案楽譜附』棚橋広訳 五木田庄次郎 1893 [SH767.5/11]
- ・『祝日大祭日唱歌重音譜』東京音楽学校編 大日本図書 1900 [SH767.6/113]

♪ 参考文献

- ・『近代日本音楽教育史 2』田甫桂三編 学文社 1981 [375.7/137/2]
- ・『本邦音楽教育史』日本教育音楽協会編 第一書房 1982 [760.7/15]
- ・『唱歌・讚美歌・軍歌の始源』小川和佑著 アーツ・アンド・クラフツ 2005 [767.02/4]
- ・『童謡・唱歌でたどる音楽教科書のあゆみ』松村直行著 和泉書院 2011 [767.7/240]
- ・『ルドルフ・ディットリヒ物語』平澤博子著 論創社 2019 [762.34/358]